

2019年7月19日

会 員 各 位

中 部 経 済 同 友 会
代表幹事 嶋 尾 正
代表幹事 盛 田 淳 夫
代表幹事 加 留 部 淳

9 月 度 会 員 懇 談 会 の ご 案 内

日頃は本会活動に多大なご支援を賜わり、誠にありがとうございます。

9 月 度 会 員 懇 談 会 は、デ ザ イ ナ ー で 東 京 大 学 生 産 技 術 研 究 所 お よ び 情 報 学 環 の 教 授 を 務 め る 山 中 俊 治 氏 を お 迎 え し、『プロダクトデザインの本質 ～Suica 改札機のタッチ面の角度はなぜ13度か～』と題しお話を伺います。

大量生産時代のモノ中心の経済において、デザインという言葉が「形や模様などのスタイリング」に偏り、本来の「機能性の設計」という観点が置き去りになって捉えられる傾向が日本では強かったと山中氏は指摘されております。今日、モノ中心の経済が成熟し、デジタルサービスが当たり前になる中で、「良質な体験・直感的な使いやすさ」の重要性が増しており、本来のデザイン力が改めて問われる時代となりました。

今回、山中氏からは、自身が手掛けられた事例も交えながら、デザインの本義についてお示し頂ける予定です。また、氏が東京大学で開始したデザインと工学の融合による価値創造の活動についてもお話を頂けると存じますので、是非とも多数ご出席賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時 2019年9月18日（水） 12:00～14:00
12:00～12:30 昼 食
12:30～14:00 講 演
2. 場 所 名古屋東急ホテル 3階 バロックの間
住所：愛知県名古屋市中区栄 4-6-8 Tel：052-251-2411
3. 講 師 デザイナー／東京大学教授 やま なか しゅん じ 山 中 俊 治 氏

（ご略歴）1957年愛媛県生。1982年東京大学工学部産業機械工学科卒業後、日産自動車デザインセンター勤務。1987年よりフリーのデザイナーとして独立。1991年より94年まで東京大学助教授を勤める。1994年にリーディング・エッジ・デザインを設立。

2008～12年慶應義塾大学政策・メディア研究科教授。2013年4月より東京大学生産技術研究所および大学院情報学環教授。デザイナーとして腕時計から鉄道車両に至る幅広い工業製品をデザインする一方、研究者として先端技術と人の新しい関わりを探究している。

2004年毎日デザイン賞受賞、ドイツ IF Good Design Award、グッドデザイン賞受賞多数。2010年「Tagtype Garage Kit」がニューヨーク近代美術館パーマネントコレクションに選定。

（ご著書）『デザインの骨格』日経BP（2011年）、『カーボン・アスリート美しい義足に描く夢』白水社（2012年）、『デザインの小骨話』日経BP（2017年）など多数

4. 演 題 「プロダクトデザインの本質
～Suica 改札機のタッチ面の角度はなぜ13度か～」
5. 会 費 5,000円（昼食代として）当日、受付にて頂戴いたします。
6. 備 考 ご出席の場合は、同封の返信用紙にて FAX でご回示ください。お申込後のキャンセルは、9月13日（金）までをお願いいたします。それ以降は、会費を申し受けますので、恐れ入りますが予めご了承願います。

以 上